

## 「2020 年度卒業時アンケート」の結果と分析

2020 度の「卒業時アンケート調査」は、「大学運営に関する満足度」「学習成果」について明らかにすることを目的に実施した。2021 年 3 月に 2020 年度卒業予定者であった児童福祉学科 192 名対象に調査票を配布した。174 名が回答し回収率は 90.0%であった。なお、本年度より実施した「学習成果に関わる内容」の指標は、カリキュラムポリシーに準じて作成された「和泉の 10 の力」とした。

### 【結果と分析】

「大学運営に関する満足度」について、満足度に関する質問は 23 項目あり、「満足」「やや満足（充実・良い）」は、平均 96,0%であり満足度は高い傾向にある。「保健室職員の対応はいかがでしたか」「学生相談室の職員の対応はいかがでしたか」は、「満足」「やや満足」が 80%程であるが、「利用しない」「無回答」を除くと全員「満足」か「やや満足」に回答している。そのため、項目ごとの差異が特段あるとはいえない。過去 4 年間（2016 年度～2019 年度）のデータにおいてもほとんどの項目で「満足」「やや満足（充実・良い）」が 90%を超えているため、例年と同様に満足度は高い傾向にある。但し、満足度に関する指標が教職員や設備環境を中心となっているため、学習過程の満足度指標の作成が今後検討の必要がある。

「学習成果に関わる調査」は、「和泉の 10 の力」を指標としているが、「ある程度身についている」「身につけている」が 22.4%～24.7%であり、和泉の学びが身につけていると実感している学生はどの項目も 4 分の 1 程であった。一方で、最も評価の低い「身につける準備ができている」の回答が 39.1%～48.3%であった。「和泉の 10 の力」に準じた成長実感が低い点は改善が必要であるが、「和泉の 10 の力」は調査対象学年が 2 年進級時に採用されていることから、入学前教育から継続した取り組みの指標としては課題がある。無回答の学生が 6%～7%あったのも、そのような影響が予測される。そのため、今後数年間の卒業生データと比較をしながら改善点を検討する必要がある。